

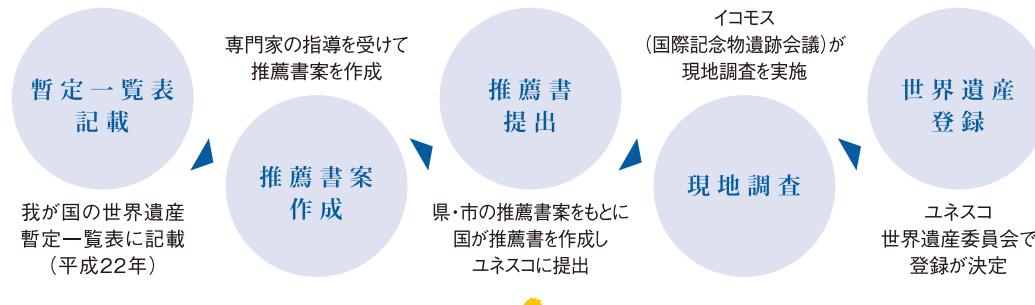
金を中心とする

佐渡鉱山 の 遺産群

The Sado Complex of Heritage Mines, Primarily Gold Mines

撮影:西山芳一

世界遺産登録までの今後の流れ



佐渡を世界遺産に

佐渡金銀山の世界遺産登録へのご支援をお願いします

佐渡金銀山世界遺産登録推進県民会議

詳細はホームページで [佐渡金銀山](#)

新潟県教育庁文化行政課世界遺産登録推進室

〒950-8570 新潟市中央区新光町4-1
tel:025-280-5726 fax:025-280-5764
e-mail:ngt500080@pref.niigata.lg.jp

佐渡市産業観光部世界遺産推進課

〒952-1292 佐渡市千種232
tel:0259-63-5136 fax:0259-63-6130
e-mail:k-goldmine@city.sado.niigata.jp



金銀山関連遺産マップ



相川金銀山までの アクセス

- 両津港から車で 約30km、移動時間約60分
- 両津港から路線バスで 本線「相川行き」に乗車、相川まで約60分
(季節または曜日によって金山行きのシャトルバス運行)
- 小木港から車で 約45km、移動時間約1時間20分
- 赤泊港から車で 約60km、移動時間約1時間40分

主な金銀山の歴史

平安時代	1185	○『今昔物語集』に 「佐渡ノ国ニコソ金ノ花栄タル所」の記述(11世紀)
鎌倉時代	1336	
		○世阿弥の『金島書』に 「金ノ島(こがねのしま)」の記述(15世紀)
室町時代	1573	○西三川砂金山の開発(15世紀)
		○鶴子銀山の発見(1542)
安土桃山時代	1603	○上杉氏の佐渡支配(1589-1600)
		○佐渡が徳川領となる(1600)
江戸時代	1868	○相川金銀山発見
		○大久保長安、佐渡代官就任(在職:1603-1613)
明治時代	1912	○相川金銀山・鶴子銀山が 官営「佐渡鉱山」となる(1869)
		○三菱へ払い下げ(1896)
大正時代	1926	
		○大増産時代(1937-1943)
昭和時代	1989	○大縮小決定(1952)
		○休山(1989)
平成	1989	

西三川砂金山
1872
鶴子銀山
1946
相川金銀山
1989

西三川砂金山

撮影:西山芳一



西三川の砂金

にしみかわのさきん

西三川では、「大流(おおながし)」と呼ばれる方法で砂金採取が行われました。

集落周辺の山の各所に堤や水路、砂金を探るために山を掘りくずした痕跡が良好に残っています。



平安時代の『今昔物語集』にも登場したと推定される、佐渡最古の砂金山

虎丸山

とらまるやま

虎丸山は西三川砂金山最大の採掘地で、砂金を探るために掘りくずされた山の斜面には現在も植物が生えず、赤色の山肌をあらわにしています。(国史跡・国重要文化的景観)

五社屋山 ごしゃややま

江戸時代の採掘場所の一つです。砂金採掘地や堤・水路のほか、石積みの作業小屋の跡などが残り、当時の砂金採取のしくみを理解することができる重要な遺跡です。

(国史跡・国重要文化的景観)



撮影:西山芳一



笹川集落 ささがわしゅうらく

砂金採取を行った人々の村で、16世紀後半、月に砂金18枚(約2.9kg)を税として納めたことから「笹川十八枚村」とも呼ばれていました。現在も、当時のおもかけを残しています。

(国重要文化的景観)

金子勘三郎家

かねこかんざぶろうけ

江戸時代から明治5年(1872)の閉山まで砂金山の名主(とりまとめ役)を代々つとめた金子家の住宅です。19世紀に建てられた茅葺き屋根の主屋のほか、土蔵、納屋、牛納屋などが残っています。

(国史跡・国重要文化的景観)



撮影:西山芳一



大山祇神社 おおやまづみじんじゃ

文禄2年(1593)、砂金山の繁栄と安全を祈願して建てられた神社です。境内にある能舞台は19世紀後半ごろの建物で、昭和20年代まで能が演じられていました。

(国史跡・国重要文化的景観)

西三川砂金山稼方図（新潟県立歴史博物館所蔵）

佐渡には鉱山操業当時の様子がわかる
鉱山絵巻をはじめとする記録がたくさん残されています。



砂金を含む山の地層を掘り崩す

地層のなかに赤色を帯びた砂金層を見付けると、
近辺に堤を築き、稼ぎ場所まで水路を引きます。

大流(おおながし)

堤に溜めた水を勢いよく流して余分な土石を洗い流し、底に残った砂礫を取り除きます。



押穿(おしぶり)

大流をくり返すことで水路の底に溜めた砂金含みの砂を汰板(ゆりいた)でゆりわけ、砂金を取り上げます。取り上げた砂金は金山役人が計量し、月末まで預かります。



金入(かねいり)

毎月末に取り上げた砂金を金山役所で開封し、奉行所と金掘りそれぞれ1か月の取り分を決めます。



鶴子銀山

佐渡
金銀山を
ユネスコ
世界文化
遺産へ
つるしぎんざん

大滝間歩 おおたきまぶ

江戸時代の記録や絵図にも登場する鶴子銀山を代表する坑道の一つです。これまでの調査によつて、江戸時代の絵図とほぼ同じ状態で残正在することがわかりました。
(国史跡)



百枚平地区の大露頭掘り跡 ひゃくまいだいらちくのだいろうとうぼりあと

鶴子銀山で初期に開発されたと伝えられる採掘場所で、地表近くの鉱石を掘った大規模な「露頭掘り」跡が集中しています。「百枚平」は、月に銀100枚を税として納めたことから名付けられたとも伝えられています。(国史跡)



屏風沢地区のひ追い掘り跡 びょうぶざわちくのひおいぼりあと

屏風沢地区では、沢沿いの斜面に露出していた鉱脈をその形のまま追いかけて採掘した「ひ追い掘り」の痕跡が良く残されています。

(国史跡)



代官屋敷跡 だいかんやしきあと

16世紀末に上杉景勝が派遣した代官の屋敷跡と考えられています。慶長8年(1603)に徳川幕府によって相川に佐渡奉行所が建てられるまで、佐渡の鉱山経営の中心となりました。

(国史跡)





16世紀末から400年間稼働した
日本最大の金銀山

相川金銀山

佐渡
金銀山を
ユネスコ
世界文化
遺産へ

あいかわきんぎんざん
～江戸時代

撮影：西山芳一

道遊の割戸

どうゆうのわりと

相川金銀山のシンボルで、上部は江戸時代に人力により掘られた道遊脈の露頭堀り跡です。下部の大きな穴は明治時代以降のダイナマイトを使用した採掘の跡です。
(国史跡・国重要文化的景観)



大切山間歩

おおぎりやままあ

本坑道に並行して通気坑道を掘り、所々連結させて坑内の通気を良くする工夫がされています。このような方法で掘られた坑道は相川金銀山の中でも大切山間歩しか確認されていません。

(国史跡・国重要文化的景観)

南沢疎水道

みなみざわそいどう

坑内の湧水処理のため岩をくり抜いて掘った排水用の坑道です。海までの約1kmを、元禄4年(1691)から5年間かけて鑽と鎚で掘りました。現在も坑内の湧水を日本海へ流し続けています。
(国史跡・国重要文化的景観)



上相川

かみあいかわ

安土桃山時代末期に相川金銀山の開発に伴って形成された鉱山集落で、鉱山町相川の發端となった場所です。江戸時代初期には「上相川千軒」と呼ばれるほど繁栄し、22～23の町があったとされています。
(国史跡・国重要文化的景観)

佐渡奉行所跡

さどぶぎょうしょあと

慶長8年(1603)に佐渡代官(のちの佐渡奉行)大久保長安によって建設されたもので、佐渡の鉱山経営と行政の中心でした。平成12年(2000)に安政年間当時の姿に復元されました。

(国史跡・国重要文化的景観)



上町

かみまち

佐渡代官の大久保長安によって台地上に町立てされた鉱山町です。金銀山と奉行所を結ぶ通り沿いには、江戸時代の町家や、近代の鉱山労働者の社宅など、鉱山のあゆみを物語る各時代の建物が建ち並んでいます。

(国重要文化的景観)



片辺・鹿野浦海岸石切場跡

かたべ・かのうらかいがんいしきりばあと

鹿野浦海岸を中心とする、江戸時代の鉱山用石磨(いしうす)の下磨(したうす)の石材切出場で、14か所の採石域、105か所の矢穴跡が確認されています。(国史跡)



吹上海岸石切場跡

ふきあげかいがんいしきりばあと

鉱山用石磨(いしうす)の上磨(うわうす)の石材切出場で、近世から近代にかけて長期的に採石が行われ、海岸線の岩場には矢穴跡や鑿跡などが多数残されています。

(国史跡・国重要文化的景観)



相川金銀山

佐渡
金銀山を
ユネスコ
世界文化
遺産へ

あいかわきんぎんざんぐ近代

明治から昭和に至る
日本の近代化の歴史を物語る鉱山施設群

北沢浮遊選鉱場・火力発電所

きたざわふゆうせんこうば・かりょくはつでんしょ

明治41年(1908)に建てられた火力発電所です。また、浮遊選鉱場は昭和13年(1938)に完成し、その後の拡張により月間5万tの鉱石の処理が可能でした。

(国史跡・国重要文化的景観)



大立豎坑

おおだてたてこう

明治10年(1877)に完成した貴金属鉱山では日本初の洋式豎坑です。鉱石・人・物資の運搬に使われ、最も深いところは352mまで達しています。国内鉱業の近代化を象徴する建造物の一つです。(国史跡・国重要文化財・国重要文化的景観)

道遊坑 どうゆうこう

明治32年(1899)に掘削され、休山まで稼働した坑道です。採掘された鉱石を間ノ山搗鉱場や高任粗碎場などにトロッコで輸送し、作業員や資材を運搬するためにも使用されました。

(国史跡・国重要文化財・国重要文化的景観)



高任貯鉱舎 たかとうちょこうしゃ

昭和13年(1938)に建設され、平成元年(1989)の休山まで使用されました。ベルコンペアードで運ばれた鉱石を2,500tまで貯蔵することができました。(国史跡・国重要文化財・国重要文化的景観)

間ノ山搗鉱場

あいのやまとうこうば

搗鉱場は鉱石を粉碎し、水銀を用いて製錬を行う施設で、明治24年(1891)に完成しました。これにより従来は廃棄していた貧鉱からの金銀抽出が可能となりました。(国史跡・国重要文化的景観)



撮影:西山芳一

大間港 おおまこう

明治25年(1892)にコンクリート普及以前の「たたき工法」によって築かれた港で、鉱石の搬出や石炭などの鉱山の資材搬入に使われました。現在も石積み護岸・トラス橋・ローダー橋脚・クレーン台座が残されています。

(国史跡・国重要文化的景観)



50mシックナー

50めーとるしきくなー

昭和15年(1940)の増産体制時に建設された、直径50mの鉄筋コンクリート製の施設です。泥状になった鉱石を鉱物と水に分離する目的で建設されましたが、工業用水を確保するための沈殿槽として利用されました。(国史跡・国重要文化的景観)



戸地川第二発電所

といじがわだいにはつでんしょ

明治時代以降、鉱山に電力を供給するため、水力発電所が建設されました。大正8年(1919)から昭和52年(1977)まで稼働していました。

(国史跡)



佐渡奉行所遠景 撮影:モノクローム新潟

豊臣秀吉・徳川家康と佐渡金銀山

越後の戦国大名上杉景勝は、豊臣秀吉から金銀の上納を条件に佐渡平定の承認を得て、天正17年(1589)に大軍を佐渡へ派遣しました。当時佐渡の中心的鉱山であった鶴子銀山には代官が置かれ、新しい採掘技術が導入されて、大量の銀が採掘されました。慶長3年(1598)に諸国から秀吉に運上された金は3,397枚8両1匁1分6厘(約560kg)で、このうち

佐渡から納められた金(主に西三川砂金山)は全体の約4分の1を占めています。

慶長5年(1600)9月、関ヶ原の合戦に勝利を収めた徳川家康は、佐渡を幕府直轄領(天領)とします。この時期に国内最大の相川金銀山が本格的に開発されるようになり、鉱山経営を重視した幕府は奉行を派遣して佐渡を統治するようになりました。

江戸時代を通じ、佐渡金銀山は小判や丁銀などの貨幣の原材料となる金銀を大量に産出し、幕府の財政や通貨制度を支えました。相川では、鉱石から金銀を生産するだけでなく、小判の製造まで行っていました。このように、鉱山で貨幣も同時に製造していた場所は世界でも他にありません。

佐渡の金銀・小判は、厳重な警護のもとに毎年江戸まで運ばれました。相川を出発した金銀・小判は、小木から船で対岸の出雲崎へと運ばれ、さらに北国街道から中山道に入り、江戸まで運ばれました。このため、北国街道は脇街道でありながら比較的早くから整備が進められ、五街道に次ぐ街道となりました。

佐渡と江戸を結んだ「金の道」



イベント「金の道ウォーク」

来島した人々が織りなす鉱山文化

金銀山の繁栄に伴い国内各地から佐渡へ来た人々により、多様な鉱山文化が育まれました。現在、佐渡では春から秋にかけて各地で能が催されていますが、これは、佐渡代官大久保長安が能楽師を伴って来島したことがきっかけといわれています。また、鉱山の労働から生まれた芸能である「やわらぎ」には、鉱山の繁栄や坑内作業の無事を願った鉱夫たちの祈りが込められています。日本の代表的な民謡の一つである「佐渡おけさ」は、廻船によって九州のはんや節が佐渡へと伝わり、現在に至っています。この他、「鬼太鼓」や「春駒」などの芸能や、鉱山から産出する鉄分を含んだ無名異土を利用して生み出され、佐渡の代表的な焼き物となった「無名異焼」など、今に残る佐渡の文化は鉱山と深い関わりをもっています。



伝統芸能「やわらぎ」

佐渡小判(オランダ銀行所蔵)
映像協力:BSN

江戸時代、幕府は鎖国政策をとり、海外との貿易を中国とオランダの2か国に制限しました。両国より生糸や絹織物、陶磁器などが日本に輸入され、丁銀や小判が対価として支払われました。オランダは、東インド会社を通じて日本との貿易を行いましたが、日本から得た小判をインドへ持ち込んで綿織物を買い付け、ヨーロッパに運び、莫大な利益を得ました。また、オランダ東インド会社の中では、小判にオランダの極印を押して通貨として用いられており、今でも極印が押された佐渡小判がオランダに現存しています。

日本からの小判の大量流出はヨーロッパからも注目されました。18世紀にヨーロッパで作成された世界地図の中には、佐渡島に「金鉱山」と記載されたものが何枚も見られるようになります。

17世紀の小判流出



世界遺産登録を目指して

平成22(2010)11月22日、佐渡金銀山遺跡が日本の世界遺産暫定リストに「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」として記載されました。私たちは、これらを人類共通の「遺産」として保護し、未来へ引き継いでいかなければなりません。みんなで確実に守り伝えることが、佐渡金銀山の世界遺産登録への確かな歩みとなるのです。

佐渡金銀山の世界遺産としての価値

- ◆ 400年以上にわたる鉱山技術の発展を示す遺跡や建造物と、それを支えた組織(管理施設・集落等)を示す物証が良く残されている、世界的にも極めて珍しい鉱山です。
- ◆ 佐渡で産出された金が、長期間にわたり国の財政を支え続けました。
- ◆ 金の生産工程を描いた絵巻が100点以上残る鉱山は世界的に見ても他に例がありません。

世界遺産とは？

人類共通の宝物

世界遺産とは、自然と人類によって生み出され、過去から現在へと引き継がれてきた、人類共通のかけがえのない宝物です。戦争、自然災害、環境汚染などにより危機にさらされているものも含まれ、国際協力を通じた保護の下に国境を越えて世界の全ての人々が次世代に残していくべきものが世界遺産です。

ユネスコと世界遺産

ユネスコは国際連合の専門機関です。ユネスコ本部にある世界遺産センターは、世界遺産条約に基づき、世界遺産を未来に守り伝えていくための国際協力の枠組みを作り、世界遺産の保護を呼びかけています。

世界遺産の種類

[文化遺産]
記念物、建造物群、遺跡、文化的景観など

[自然遺産]
地形や地質、生態系、景観、絶滅のおそれのある動植物の生息地など

[複合遺産]
文化遺産と自然遺産の両方の価値を兼ね備えている遺産

撮影:西山芳一

(写真の鉱山絵巻は複製品です)



世界遺産登録を目指す7つの構成資産

西三川
砂金山

相川
金銀山

吹上海岸
石切場跡

戸地川
第二発電所

鶴子銀山

大間港

片辺・鹿野浦
海岸石切場跡